

## 着任のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事  
JAPAN AIRLINES CO LTD  
Vice-President / Regional Manager  
吉岡 敬之



シンガポール日本商工会議所の皆さま、土橋の後任としてこの度理事を務めさせていただくことになりました、日本航空株式会社の吉岡でございます。いまだ、ご挨拶申し上げていない会員のみなさまも多くいらっしゃいますが、まずは、本紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

当地には新型コロナウイルス感染症の拡大が続いていた2021年7月に赴任し、この7月までアジア・オセアニア地区を統括する部署で業務に当たらせていただいております。シンガポール赴任当時はロックダウンが断続的に行われていた時期でもあり、入国時には14日間の隔離もあり、日常業務のみならず生活基盤を整えることに非常に苦労したことを覚えております。

航空業界に目を転じますと、2019年は全世界から3,000万人を上回る海外のお客さまが日本を訪問されていたと思いますが、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により25万人弱まで落ち込みました。シンガポールからも同様に、2019年には約49万人の方が日本を訪れていましたが、2021年はわずか850人程度まで落ち込みました。その後、昨年の感染症法における5類感染症への移行により、2023年は全世界からの訪客数は2,500万人まで回復、シンガポールからは約59万人と新型コロナウイルス感染症前を大きく上回る方々が日本を訪れるまで回復しております。その間、航空業界は非常に苦しい時期を過ごして参りましたが、皆さま方の多大なるご支援、ご協力によりどうか今日を迎えることができました。ありがとうございます。

2024年に入り、多くのお客さまが日本と各国を往来いただくようになりましたが、不安定な世界情勢、物価上昇や34年ぶりの円安ドル高、人財不足や航空燃料の不足、オーバーツーリズムなど、また、中期的には環境対策への対応、2050年度CO2排出量実質ゼロの実現に向けての取り組みなど、社

会全体に共通する新たな課題に直面しております。

これら多くの課題はありますが、来年4月には2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」が開幕となり、多くの海外のお客さまが日本を訪れていただくこととなります。課題解決に向けては一つ一つ真摯に取り組みながら、今後も移動を通じた関係・つながりの創出、人・モノの移動、つながりのお手伝いをさせていただくことで社会の進歩発展に貢献させていただく所存でございます。

わたくしごとではありますが、簡単に略歴を申し上げますと、1991年に日本航空に入社し、羽田空港の旅客ハンドリングセクション、国内線・国際線における客室乗務、新千歳空港、客室乗員部や関連航空会社等の総務セクションを経て、オーストラリア・シドニーに2013年から2017年の5年間駐在しておりました。シンガポールは海外2ヶ国目の駐在になります。オーストラリア駐在中は、皆さま方に多大なご心配、ご迷惑をおかけした2010年の経営破綻以降、初めての新規路線開設として2017年にオーストラリア・メルボルン線の就航に携わらせていただきました。その後、広報部を経験し、アジア・オセアニア地区の統括セクションを経て、この8月にシンガポール支店への異動を拝命いたしました。JCCIでは、生活産業部会に所属し、広報委員会を担当させていただきます。

これまでは社内のやり取りが多い部署に参りましたが、シンガポール日本商工会議所の活動を通じて、微力ながら少しでも日系企業・日本人社会のお役に立てるよう、精一杯努めて参る所存でございます。多くの皆さまと交流させていただく機会を楽しみにしております。

最後になりますが、会員企業の皆さま、事務局の皆さま、またご家族の皆さまの益々のご健勝・ご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。